

2 まちづくりの前提条件

2-1 大子町の概況

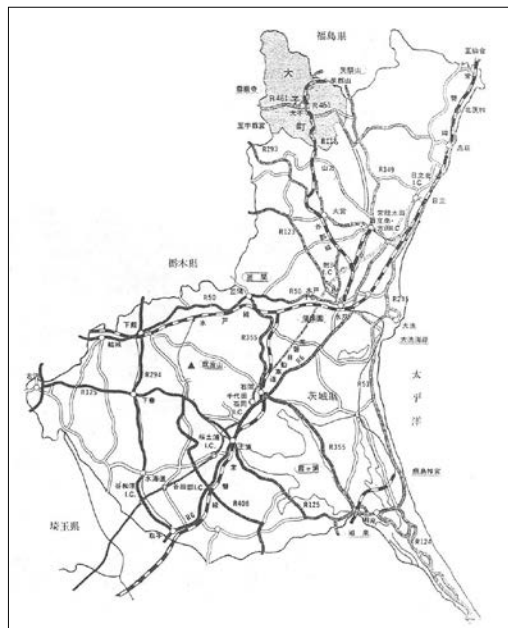
(1) 大子町の位置と地勢

大子町は茨城県の北西部に位置し、福島県、栃木県と隣接する。町の面積は325.78k㎡であり、県内市町村で3番目の大きさです。

主要な交通網は、鉄道が町の中央をJR水郡線が縦断し、道路は国道118号が縦断、国道461号が横断し、町の骨格となる道路を形成しています。

町土の約80%が八溝・阿武隈山系からなる山地で、県内最高峰となる八溝山の標高は1,022m、平野部では中心市街地である町役場の地点で標高103mとなり、盆地の地形となっています。

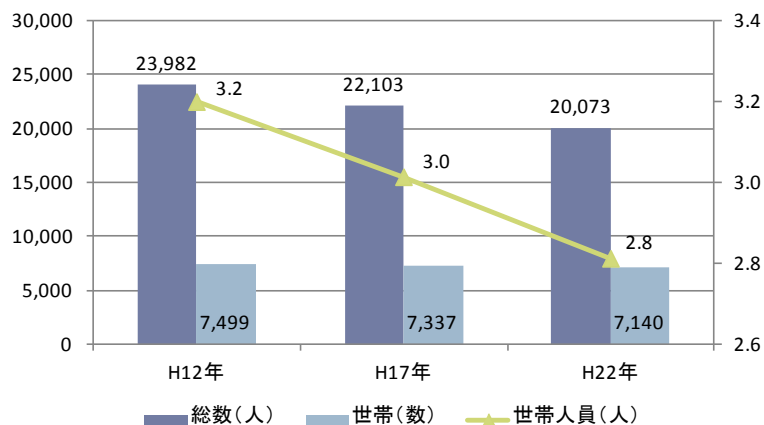
周辺の日々から中小河川が数多く流れ出し、町の中央を縦断する久慈川に合流します。これらの河川に沿って耕地や集落が散在し、中山間地域を形成しています。



位置図

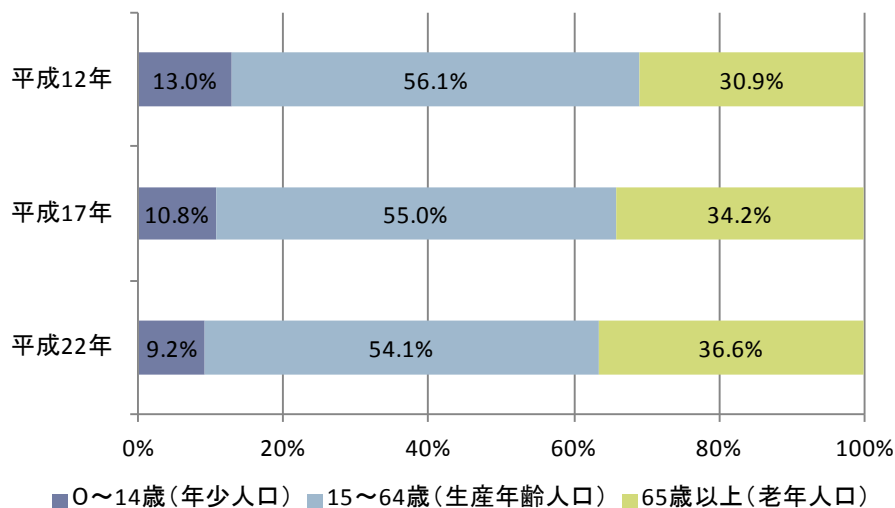
(2) 人口

平成22年10月1日現在、大子町の人口は、20,073人、世帯数は7,140世帯です。平成12年からの推移を見ると、人口は一貫して減少傾向にあり、世帯あたりの人員も減少しており、世帯規模の縮小が見られます。



出典：国勢調査

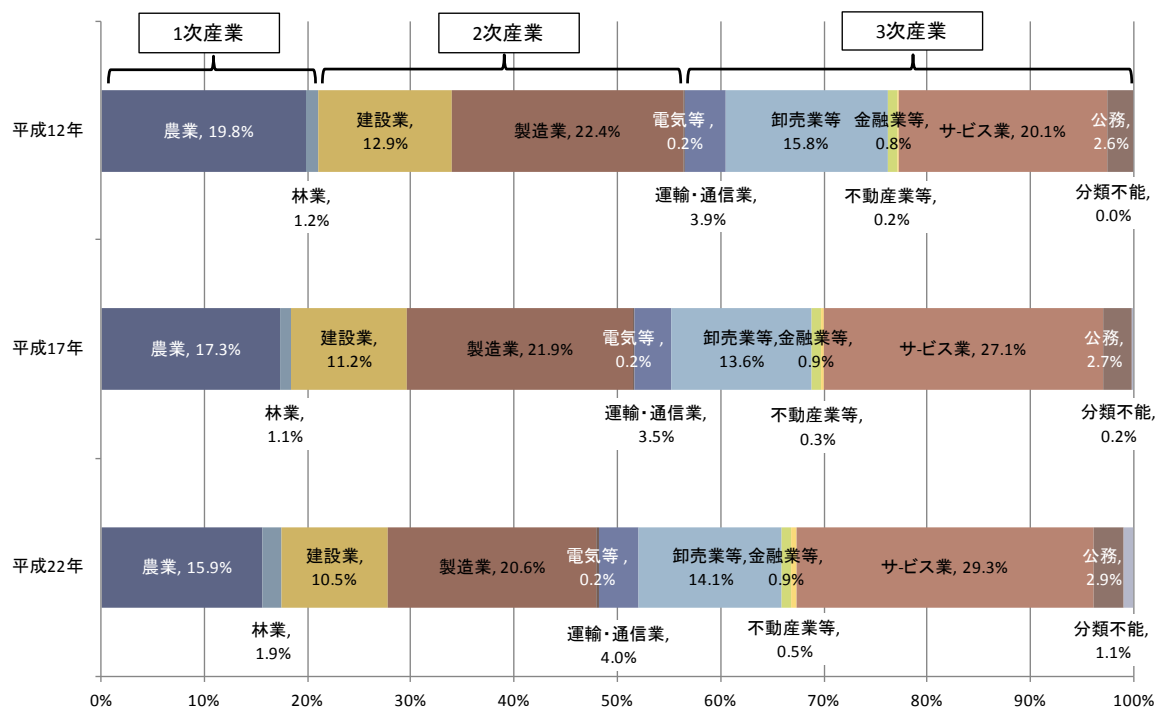
年齢別人口を見ると、年少人口（0～14歳）と生産人口（15～65歳）比率が低下し、老年人口（65歳以上）比率が上昇する、少子高齢化が顕著となっています。



出典：国勢調査

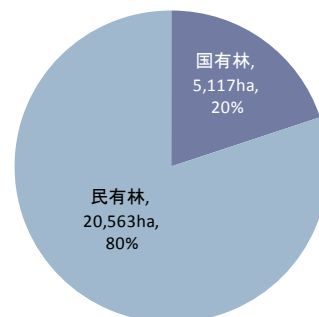
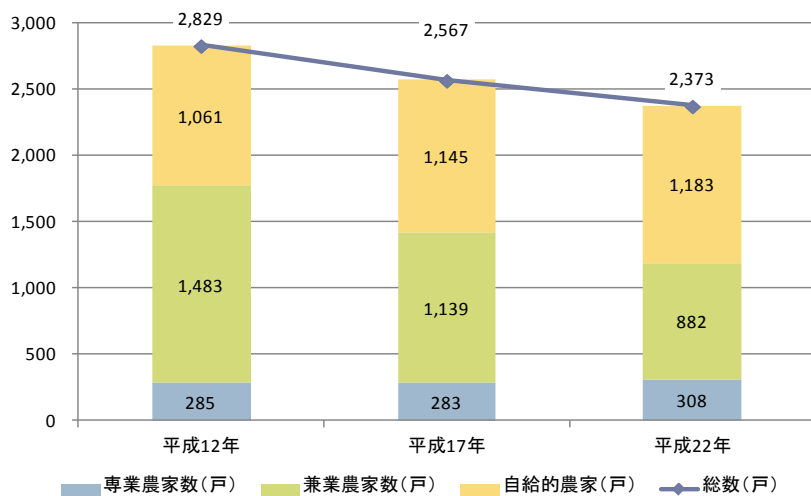
(3) 産業

産業別人口を見ると、第3次産業の割合が増加し、農業を始めとするその他の産業の割合が減少しており、大子町に居住する就業者の産業構造が変化しています。



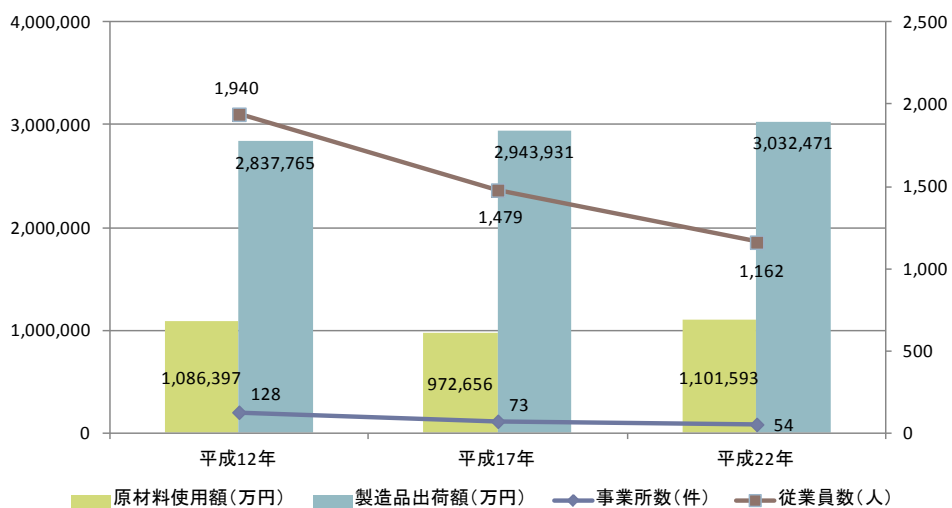
出典：国勢調査

①農業・林業



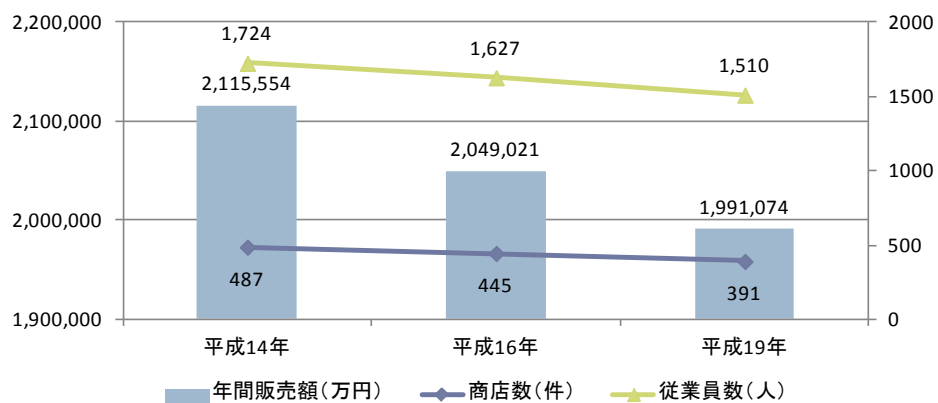
出典：農林業センサス

②工業



出典：工業統計調査

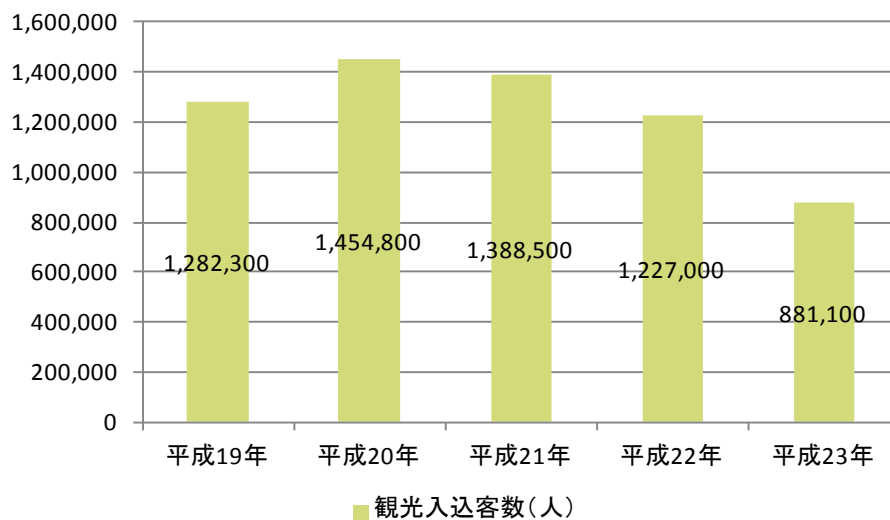
③商業



出典：商業統計調査

④観光

大子町は、日本三大名瀑の一つ「袋田の滝」をはじめ、県内最高峰の「八溝山」、「久慈川」、「奥久慈温泉郷」など、豊かな観光資源に恵まれています。平成19年からの観光入込客数の推移を見ると、平成20年をピークに減少傾向が加速化しています。



出典：茨城県観光客動態調査

⑤文化的資源

大子町は、多くの文化的価値の高い史跡、寺社、有形無形文化財、天然記念物等があります。

町指定文化財は「文武館文庫」や「文武館跡のけやき」などをはじめ19件、県指定文化財は「浅川のささら」など6件が登録されています。

また、大子町と豊かな自然と確かな技術が生み出したこんにやく生産用具は、国の登録有形民俗文化財に登録されることが決定しています。



文武館文庫



こんにやく生産用具

【町指定文化財】

名称	種別	指定年月日
文武館文庫	史跡	S50. 9. 12
道祖神碑	有形民俗	S50. 9. 12
庚申供養塔	有形民俗	S50. 9. 12
しだれ桜	天然記念物	S50. 9. 12
文武館跡のけやき	天然記念物	S50. 9. 12
だき灯籠の杉	天然記念物	S50. 9. 12
鏡城跡	史跡	S50. 9. 12
上岡古墳群	史跡	S52. 6. 19
高德寺山門	建造物	S56. 5. 19
木造 阿弥陀如来坐像	彫刻	S56. 7. 17
ヒメザゼンソウの群落	天然記念物	S58. 9. 26
サクラソウの群落	天然記念物	S58. 9. 26
仲山古墳群 3号墳出土遺物 (直刀, 刀子, 鎌)	考古資料	S61. 9. 13
大雲寺観音堂 付属 大般若経 600巻宝篋印塔 1基	建造物	H9. 3. 28
木造 聖徳太子立像	彫刻	H9. 3. 28
塑像 如信上人坐像	彫刻	H9. 3. 28
如信上人終焉の地	史跡	H9. 3. 28
法龍寺のカヤ	天然記念物	H9. 3. 28
涅槃図	絵画	H14. 3. 25

【県指定文化財】

名称	種別	指定年月日
銚スギ	天然記念物	S6. 10. 13
袋田の滝	名勝	S15. 3. 27
浅川のささら	無形民俗	S30. 6. 25
獅子頭	彫刻	S37. 2. 26
文武館跡のけやき	天然記念物	H14. 12. 25
しだれ桜	天然記念物	H17. 11. 25

2-2 上位計画・関連計画

中心市街地活性化を検討するにあたり、大子町全体や対象地域のまちづくりに関して、これまでに検討されている内容を整理し、あらかじめ踏まえることとします。

(1) 大子町第5次総合計画

①まちの将来像

まちづくりの基本は、そこに住む人が愛着と誇りを持って生き生きと安全で安心して暮らすことができ、また訪れる人にも魅力を感じさせるまちをつくり、自然環境や歴史・文化等の地域の特性を生かして、その魅力を維持・向上させていくこととしています。そして大子町の将来像を「花と緑と若者の住む 互いに支え合う心豊かなまち」と定め、町民と企業、そして行政がこの将来像を共有し、一体となってその実現を目指しています。

【大子町の将来像】

花と緑と若者の住む 互いに支え合う心豊かなまち

②まちづくりの基本姿勢及び目標

目指すべき町の将来図を実現するため、本町のおかれている現状や課題等を踏まえ、今後のまちづくりにあたっての「2つの基本姿勢」と、「3つの目標」を次のように掲げています。

【2つの基本姿勢】

①内部からの活性化

町内に存する地域資源（人、特産物、イベント等）をより一層効果的に活用するとともに、潜在力を磨き、まちの活性化に結びつけていきます。

②外部からの活力導入

大学等が有する高度な専門的知識や都市住民との交流、企業の誘致等による町外からの活力を積極的に生かした施策を推進します。

【3つの目標】

①住みよいまち

- 結婚や出産、子育てに希望を持って暮らせるまち
- 高齢者が生きがいを持って、健康で安心して暮らせるまち
- 確かな学力と健やかな体、豊かな心を育む教育のまち

②活力あるまち

- 若者から高齢者まで生き生きと働ける環境のまち
- 安全で安心な品質の高い特産品を提供するまち

③美しいまち

- 四季折々の自然の恵を豊かに感じながら、人々が活発に行き交うまち
- 豊かな自然を守るため、町民が一体となって環境保全に取り組むまち

(2) 都市計画マスタープラン

平成 15 年に策定された太子町都市計画マスタープラン(平成 32 年目標)においては、都市づくりの将来像を「自然と共生する豊かな太子」としています。

市街地整備に関しては、「定住の確保や地域活力の維持のため、中心的な市街地の再生や観光施設機能の充実、整備等を図る」という方針が示されています。また、「地域の特徴的な風景を景観資源と位置付け、それらを保全、活用した景観形成を進める」ことを目標として掲げています。

①都市づくりの課題

- ・ 広域的な交通網整備
- ・ 既成市街地の再生
- ・ 身近な生活環境の整備・充実
- ・ 高齢社会を前提とした生活環境の整備
- ・ 豊かな自然環境の維持・保全

②都市づくりの基本理念

- ・ 豊かな山川が織りなす自然や、袋田の滝をはじめとした観光資源をより一層活かして行く
- ・ 町の活力維持には、交流人口の拡大と密接な関係があることから、広域的な視野から見て町の吸収力を高めながら、交流促進に資する基盤施設の整備を進めていく
- ・ 町の活力維持とともに子供からお年寄りまで、各年代がバランスよく、住み続けられる生活重視のまちをつくる
- ・ 地球規模での環境問題への意識の高まりや、自然との共存がまちづくりのテーマとしてより重要になる中で、本町の豊かな自然がそうした志向性を具体的に体现できるものである

③都市づくりの将来像（テーマ）

自然と共生する豊かな太子

④都市づくりの基本方針

- ・ 自然環境と共生し質の高い空間あふれる都市づくり
- ・ 多様な交流を生み出す都市づくり
- ・ 都市的利便性向上による生活重視の都市づくり

⑤ 中心市街地に関する方針

● 市街地整備の方針

- ・ 中心市街地の再生

主に JR 水郡線常陸大子駅周辺において、本町の中心的な市街地あるいは観光都市としての機能充実のため、町有地の利活用検討や、老朽木造建築物密集市街地の改善、骨格的な道路網の見直し・整備による再生を図ります。

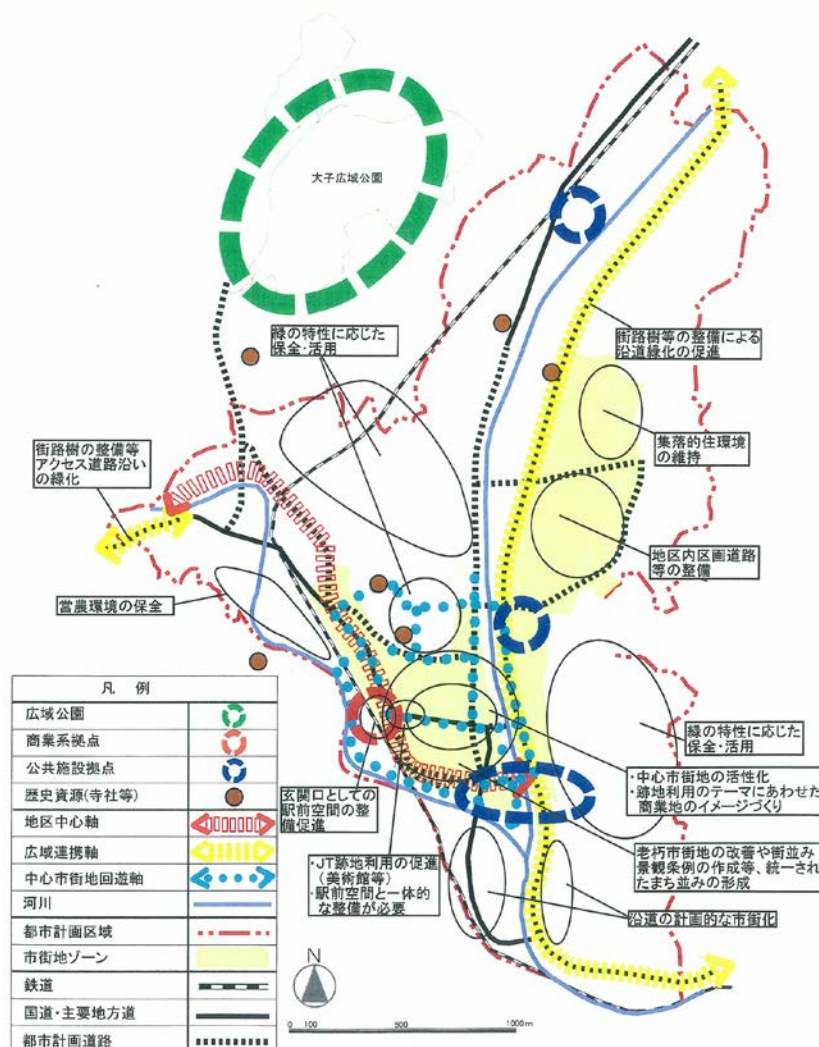
- ・ 観光施設の整備・充実

既存の主要な観光施設の利用促進や、その他の公的施設との連携強化を図ります。

● 観光・アメニティ（快適性）環境の整備に関する方針

- ・ 駅前環境の整備充実（案内看板、店舗等の充実）や飲食店等の充実による賑わいづくり
- ・ 統一されたまちなみの形成（木造・和風を基調）
- ・ 散策路としての駅前通りや市街地内道路の整備による回遊性の充実

全体構想図



(3) 都市再生整備計画(大子駅周辺地区)

常陸大子駅周辺においては、平成 18～22 年を計画期間とする都市再生整備計画を策定しています。

【大目標】 「中心市街地の機能再生と人々の交流拠点づくり」

【小目標】

- ①地域交通・コミュニティ・経済の拠点である中心市街地の機能再生を図る
- ②国道 461 号の整備に合わせ観光客を取り込み、町の人々と産物にふれる交流拠点づくりをし賑わいを創出する
- ③中心市街地内の歩道等の整備を図り歩行環境の改善と回遊性の向上を図る

【計画区域の整備方針】

整備方針① 中心市街地の機能再生

中心市街地に人々が集まり賑わいを創出するための核となり、地域住民が文化活動や子育てを通じて集うことの出来る複合施設の整備を JT 跡地に行うとともに、町の顔である大子駅前ロータリーの整備に合わせ水郡線や駅前商店街の利用促進を図るため既存の町営駐車場の拡充を行います。

さらには、商工会や商店主等との連携を取りながら商店街の景観についての調査検討を行いデザイン統一化などにより商店街としてのイメージと集客力の向上を図ります。

- | | | |
|------------|----------------|------------|
| ・地域交流センター | ・子育て世代活動支援センター | |
| ・駅前ロータリー整備 | ・駅前駐車場整備 | ・商店街景観検討調査 |

整備方針② 中心市街地の交流拠点づくり

国道 461 号が整備され、東西軸の機能が強化されることで、中心市街地へ来訪する観光客の増加が見込まれることから、町の観光案内や特産品等の情報発信を行うとともに、観光客と町民、あるいは町民同士が各種のイベント等を通じ、ふれあい・交流の場を創出する「観光交流センター」の整備を行います。

また、地域の人々が気軽に集える拠点としての河川公園の整備や、中心市街地への誘客の目玉として SL 展示場を移設します。

- | | | |
|-------------|---------|-------------|
| ・観光交流センター整備 | ・河川公園整備 | ・SL 展示場移設事業 |
| ・建物除却事業 | ・モニュメント | |

整備方針③ 歩行環境の改善と回遊性の向上

駅から病院が立地する地域へアクセスする道路の歩道に段差があり、通院する高齢者や住民の方々が支障をきたしているため段差を解消し、歩行環境の改善を図ります。

また、国道 461 号の整備に合わせ、国道と市街地を結ぶ町道を整備するとともに、市街地とその周辺に分布する歴史や自然を学び、文化施設等を散策するためのウォーキングコースや、情報提供を行うためのサイン等の整備を行うことにより、市街地内における回遊性や歩行環境の向上を図ります。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・町道 101 号線（都市計画道路後山線）歩道設置・町道 2158 号線歩道の段差解消(歩道部下げ)・町道 2152 号線整備(国道 461 号接続部)・街中ウォーキングコース整備 ・回遊サイン整備 |
|---|

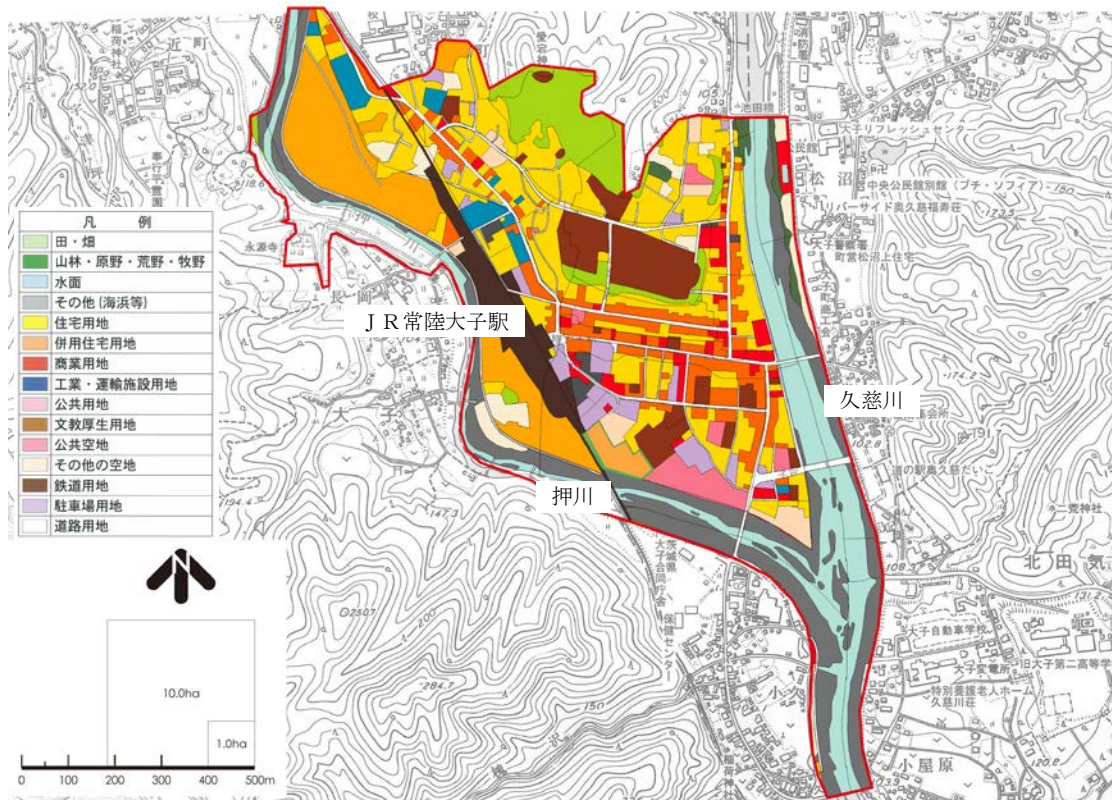
※整備方針③の主要な事業における()書きは本構想における補足追記事項

2-3 中心市街地の活性化を図る区域

(1) 中心市街地の活性化を図る区域の設定

本計画の対象区域は、都市計画区域内の用途地域が定められている区域を基本として、久慈川と押川に挟まれるJR常陸大子駅周辺の既成市街地及びその隣接地とし、活性化に役立つ地域資源を含み、一体的に事業を推進することで相乗効果が期待できる区域とします。

さらに、社会資本整備総合交付金（国土交通省）などの事業の活用も念頭に入れながら、効果的に中心市街地の活性化を図る区域として、次の区域を設定します。



計画区域（土地利用現況図）

2-4 地域資源の状況

中心市街地活性化を図るためには、町内の各種地域資源をうまく取り込み、役立てることが重要です。そこで、太子町の中心市街地の活性化に関連する地域資源の状況を整理します。

(1) まちの歴史や文化を伝える【歴史・文化資源】

中心市街地には、十二所神社をはじめとする神社仏閣や、文化を伝える石碑などの文化財があります。また、十二所神社の春季例大祭ぶんぬき祭りなど、地域行事も行われています。

また、多くの文化財が残っており、それらを保存する動きの一つとして、講演会等も実施されています。



ぶんぬき祭り



十二所神社

(2) 人々の生活風景を伝える【生活資源】

中心市街地には、どこか懐かしい風景が今も多く残っています。家々の間を縫う路地空間や水路、知り合いと出会う商店街、大正、昭和の雰囲気を醸し出す趣のある板塀の建築物、気軽に休めるベンチ、店先の花壇などおもてなしの心がまちなかに溢れています。

また、太子らしい板倉景観を後世に伝えるための保存活動も行われています。



庭先の花壇



板倉沿いの路地空間

(3) 雄大な自然が魅せる【自然資源】

中心市街地の高台からは、まちなみと奥の青々とした山を見渡すことができます。久慈川では、アユ釣りや、やなが設置されるなど、水辺のレジャーを楽しむことができます。また、美しい清流の風景を愛でるための遊歩道も整備されています。

また、林業のまちとして栄え、八溝杉を使った校舎の外観や内装は、郷愁を誘う趣のあるものです。また、大子漆は非常に質が高く、産出量は日本で第2位となるなど、自然の恵みを活かした地域資源に溢れています。



大子漆



高台から中心市街地を望む

(4) まちの発展を支えてきた【産業資源】

中心市街地には、昔使われていた銀行や蔵など、まちの発展を支えてきた歴史的な建造物が残っています。現在は、新たな使命を得て、住民や観光客をもてなす空間として活用されている建物もありますが、空き家となっているものもあります。

また、自然の恵みと先人の知恵と技術を活かしたこんにやくや、日本三大地鶏の一つである奥久慈しゃも、栽培南限のリンゴなどを活用した特産品など数多くの資源があります。

また、大学や企業との連携による、様々な活性化の取り組みが行われています。

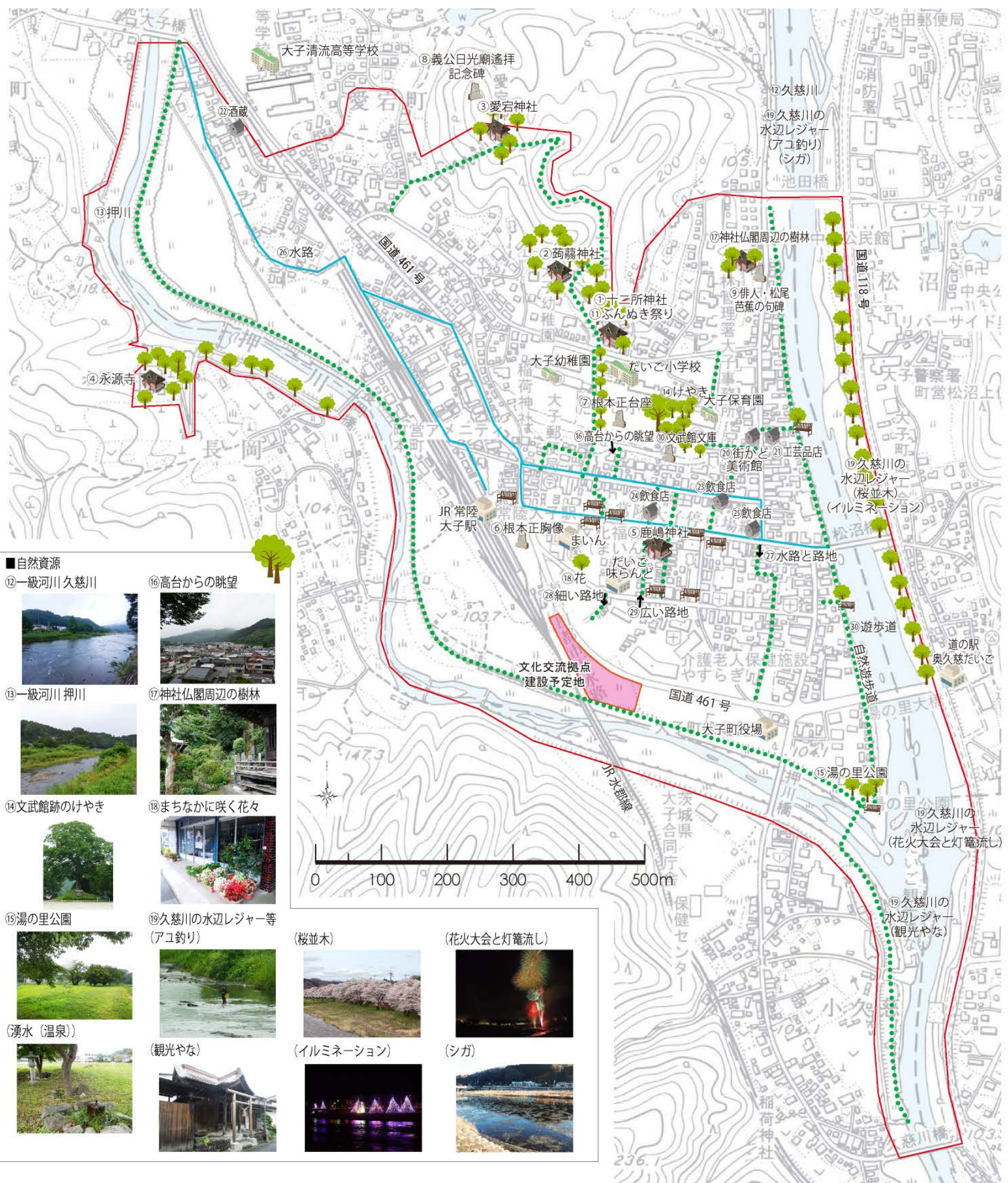


こんにやく



酒蔵

■神社仏閣



地域資源マップ



凡例

	神社仏閣		水路(暗渠を含む)
	文化資源		路地・遊歩道
	自然資源		文化交流施設建設予定地
	歴史的な建造物		
	教育施設		
	公共公益施設など		
	ベンチ		

2-5 中心市街地活性化の方向性

大子町の中心市街地において、どのようなまちづくりを進めるかを明確にするため、ここまで整理した「これまでのまちの状況」と「現在のまちの状況」から、そのヒントを探ります。

(1) 中心市街地活性化の方向性

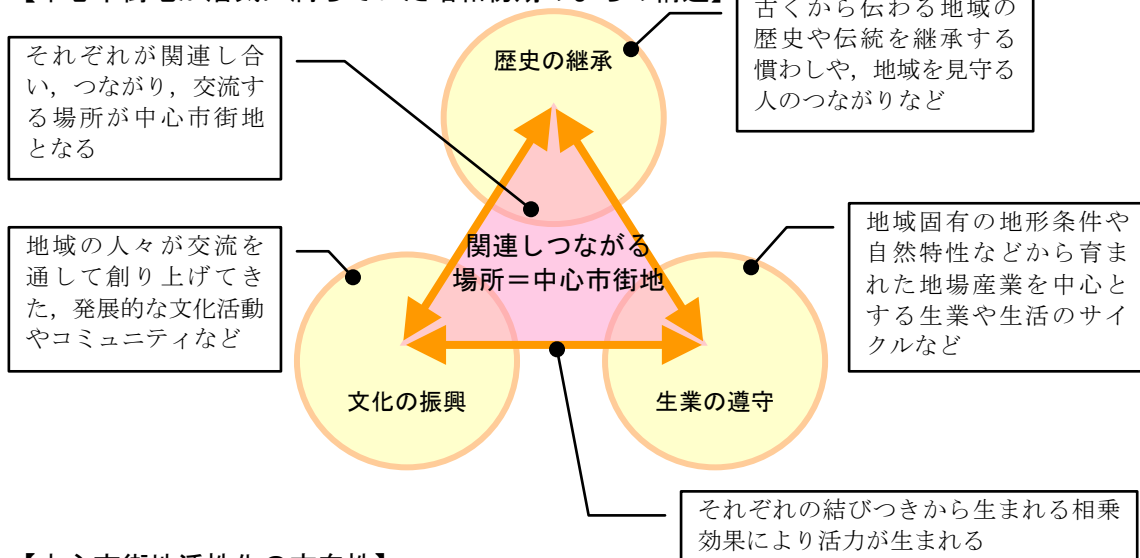
大子町の変遷や地域特性、地域資源などをたどると、中心市街地が活気に満ちていた昭和初期には、地域の歴史や伝統を継承するための人のつながりが強かったこと、地域の人々が交流を通して発展的な文化振興を行ってきたこと、地域特性から生まれた^{なりわい}生業や生活を守ってきたこと、その活動の中心の場所となったのが中心市街地でした。

しかし、現代社会においては、流通や産業構造の変化、通信の発達や生活環境の変化などにより、中心市街地におけるそれぞれのつながりが薄れた、もしくはつなぐものが変わってきたことで中心市街地の活力が失われつつあると考えます。

一方で、大子町内にある主要観光地では、時代が豊かになったことで来訪者も増え、外部からの得られる刺激が大きくなってきました。

このようなことから、中心市街地活性化の方向性は、昭和初期からの大子らしさを活かしつつ、元々あったものをつなぎ直すことや、現代社会の視点で外部からの活力を生かした新たなつながりを創出することで中心市街地の活力を呼び戻す方向性を導き出すものとします。

【中心市街地が活気に満ちていた昭和初期のまちの構造】



【中心市街地活性化の方向性】

- ・ 地域資源などの市街地を構成している要素に磨きをかけ、大子らしさを復活させる
- ・ それぞれの結びつきを現代社会に置き換え、連携するつながりを再構築する
- ・ 外部からの活力を生かし、新たな交流の場となるためのうつつを創り上げる